

令和元年11月20日

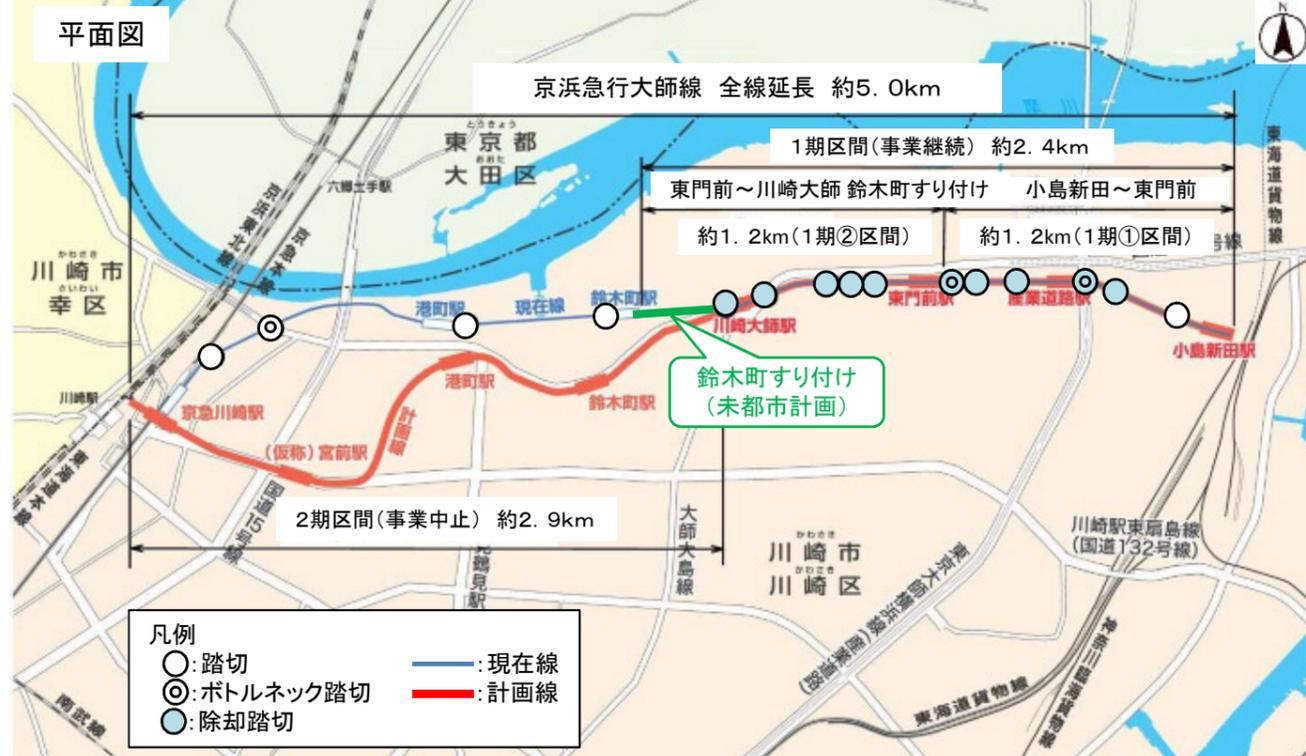
まちづくり委員会資料

京浜急行大師線連続立体交差事業の
進捗状況等について

建設緑政局

京浜急行大師線連続立体交差事業の進捗状況等について

1 事業概要



(1) 事業目的

京浜急行大師線の小島新田駅から鈴木町駅間約2.4kmにおいて鉄道を地下化することにより、10箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る。

(2) 事業内容

- ・事業区間：小島新田駅～鈴木町駅
- ・事業延長：約2.4km
- ・除却踏切数：10箇所
- ・事業認可期間：平成5年度～令和6(2024)年度

2 事業の経過

- 平成5年6月：都市計画決定
- 平成9年6月：施行協定の締結 1期区間(小島新田駅～川崎大師駅手前)
 工期：平成8年度～平成14年度 事業費：約536億円
- 平成15年3月：変更施行協定の締結(1期①区間(小島新田駅～東門前駅)の設定、工期の延伸)
 1期①区間 工期：平成8年度～平成22年度 事業費：約337億円
- 平成18年2月：1期①区間(小島新田駅～東門前駅)工事着手
- 平成23年3月：変更施行協定の締結(事業費を約125億円増額、工期の延伸)
 1期①区間 工期：平成8年度～平成26年度 事業費：約462億円
- 平成26年4月：変更施行協定の締結(工期の延伸)
 1期①区間 工期：平成8年度～平成27年度
- 平成28年3月：変更施行協定の締結(工期の延伸)
 1期①区間 工期：平成8年度～平成31年度(令和元年度)
- 平成28年3月：事業費検証委員会
- 平成29年4月：変更施行協定の締結(事業費を約180億円増額)
 1期①区間 事業費：約642億円
- 平成31年3月：1期①区間(小島新田駅～東門前駅)地下化切替

3 現在までの進捗状況

～1期①区間～

- 平成31年3月から地下での運行を始めたことで、産業道路の踏切を含む3箇所の踏切を除却し交通渋滞の解消を図った。特に産業道路では塩浜交差点から大師河原交差点の通過速度が約6割(※)向上するなどの効果が発現した。

※塩浜交差点から大師河原交差点間(約1.1km)の通過速度：
 (除却前)約10.2km/h → (除却後)約16.9km/hに改善

- 現在は、地下切替後に不要となった地上部の鉄道施設の撤去や、産業道路駅の駅舎整備などを進めている。

- 事業完了が間近となったことから、今後の工程や精算に向けた調整を京浜急行電鉄と進めているが、その中で、**工期の延伸や事業費の増加について、京浜急行電鉄から示された。**

【工期延伸について】

地下切替の実施時期の変更などにより約24か月の工期延伸が示された。

【事業費の増加について】

物価高騰や追加工事による事業費の増加が示された。なお、物価高騰による事業費の増加については、現時点で約20億円と示された。

～1期②区間～

- 1期区間全体の事業効果の早期発現に向けて、**継続して1期②区間の工事を進めるため、設計や関係機関との協議を行っている。**

4 今後の方針

～1期①区間～

- 工期延伸、物価高騰や追加工事による事業費の増加については、**変更内容や算出した事業費の妥当性を確認するために検証を行う。**

～1期②区間～

- 現在進めている設計や関係機関との協議を早急に完了させ、1期②区間の事業費や工期を算出するとともに、1期区間全体の事業費を含め検証を行う。

⇒ 上記事項を踏まえ、京浜急行電鉄と引き続き協議を行いながら、**工期延伸や事業費の増加、対象区間の追加(鈴木町すり付け部)について施行協定の変更を今年度中に行う予定。**なお、施行協定の変更など事業の節目にあたっては、議会への報告を行うとともに、新たに発足させる地域協議会などを通じて市民への説明を行いながら進める。

5 スケジュール

- 令和元年9月～12月 京浜急行電鉄との協議、工期の延伸や事業費等の検証
- 令和元年12月～令和2年2月 庁内調整のうえ協定変更について方針を決定
- 令和2年2月～3月 まちづくり委員会報告(予定)、市民説明
- 令和2年3月末 京浜急行電鉄と変更施行協定の締結
- 令和2年度 1期①区間、②区間の事業推進
- 令和3年度 1期②区間の鈴木町すり付け部と2期区間の都市計画変更

京浜急行電鉄から示された工期延伸の内容について

I 工程について

○工程表の②のとおり、工期を24か月延伸。(令和2年3月⇒令和4年3月)

表1 工程表



III 駅舎整備について

○地下切替の実施時期の変更に伴い、産業道路駅の駅舎整備が令和2年度以降も継続することから、産業道路駅駅前交通広場整備と工事ヤードの重複及び駅舎の建築計画の変更(図3参照)などによる工程の遅延が見込まれるため、駅舎整備の完成時期が令和4年3月になると京浜急行電鉄から示された。(表1②参照)

※駅舎工事と駅広工事の施工調整や完成時期等について、引き続き京浜急行電鉄や関係局と調整し確定する。

図3 産業道路駅周辺の工事ヤード



II 地下切替について

- 東門前駅付近及び産業道路付近において、地上で運行している列車を地下での運行に切替える「地下切替」を、平成30年春に実施する予定であった。
- 平成28年当時の計画では、地下切替は、門型の引上げ施設(写真①参照)を設置して実施する予定であったが、東門前駅付近の地下切替については、東門前小学校の敷地の一部(図2青色着色部)を使用できることとなり、事業費の縮減が見込まれることから、自走式のクレーンを用いて実施する工法(写真②参照)に変更した。
- 地下切替の工法変更に伴い、小学校の外構(塀、門扉等)撤去や自走式のクレーンを設置するための地盤補強などの対策に必要な期間を含め、地下切替の実施時期を平成30年春から平成31年3月に変更した(表1①参照)

図1 切替工事概要図

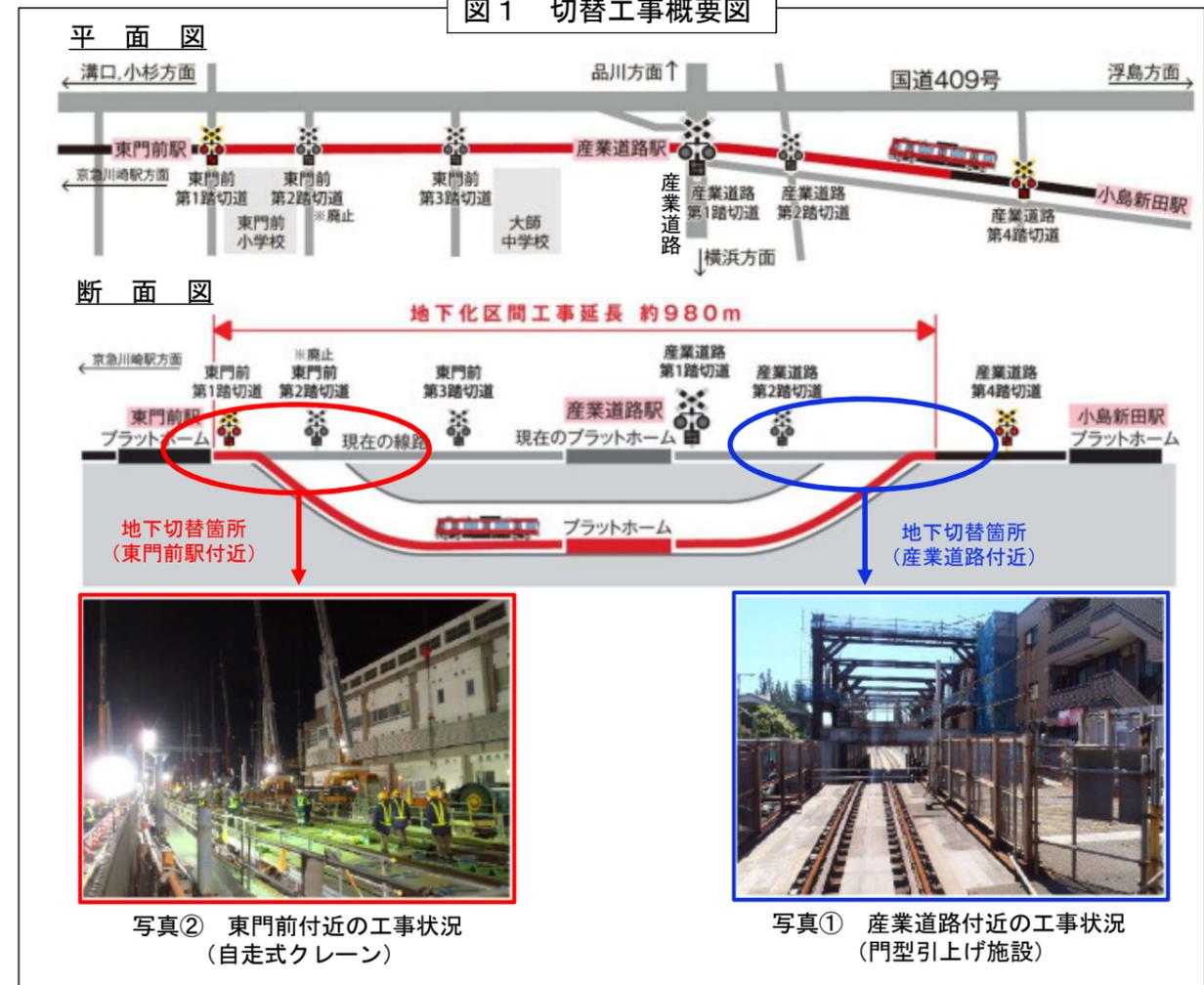


図2 東門前小学校平面図

